第二十一講　歴史論その2

太古から現在に至るあらゆる出来事をくまなく記録し、能（あた）う限り正確に記述することは、歴史学者の夢であろう。その夢をA・ダントは「理想的年代記作者」と呼んでいる。すなわち、すべての歴史的出来事を、それが起こった瞬間にありのままに描写する能力を備えた超人的な歴史学者のことである。しかし、たとえそのようなことが可能だとしても、彼が作成する「年代記」は脈絡を欠いた膨大な歴史年表のようなものであり、それは歴史叙述の基礎資料とはなりえても、「歴史叙述」とはなりえない。なぜなら、そこには出来事と出来事とをつなぐ脈絡、すなわち「物語」が欠落しているからである。このような歴史学者のことを、小林秀雄は「一種の動物に止まる」と喝破（かっぱ）した。今さら引用するのも気が引けるほど<u>A人口に膾炙（かいしゃ）した</u>文章だが、ここはやはり『無常といふ事』の一節に登場してもらわねばならない。

> 思ひ出が、僕等を一種の動物である事から救ふのだ。記憶するだけではいけないのだらう。思ひ出さなくてはいけないのだらう。多くの歴史家が、一種の動物に止まるのは、頭を記憶で一杯にしているので、心を虚しくして思ひ出す事が出来ないからではあるまいか。（中略）上手に思ひ出す事は非常に難かしい。だが、それが、過去から未来に向かつて飴の様に延びた時間といふ蒼ざめた思想（僕にはそれは現代に於ける最大の妄想と思はれるが）から逃れる唯一の本当に有効なやり方の様に思へる。

ここに見られる「記憶」と「思い出」との対比は、「理想的年代記」と「歴史叙述」との区別を際立たせてくれる。記憶をあらゆる歴史的出来事が細大漏らさず貯蔵された巨大な水甕（みずがめ）だとすれば、思い出とは、その水甕のわずかな割れ目から滲み出した一筋の水滴にでもなぞらえることができる。その水滴は<u>B朝（あさ）まだき</u>の光に照り輝くこともあれば、夜の冷気に氷結することもあるであろう。小林秀雄は一滴の水が乾いた舌にしたたり落ちるその瞬間を捉えて、それを「歴史」と呼んだのである。それゆえ、思い出は過去の出来事のありのままの再現ではない。それは<u>①経験の遠近法によるろ過と選別とを通じて一種の「解釈学的変形」</u>

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

を被った出来事である。強烈な印象を刻みつけた出来事はクローズアップで大写しにされ、さほど印象に残らない些末な出来事は遠景に退いてフェイドアウトすることであろう。そこにはおのずからなる想起の力学が働いているのである。

しかし、小林の思い入れに反して、「思い出」はそのままでは「歴史」に転成することはできない。思い出されただけで、それが再び記憶の闇の中に消え入るならば、思い出は甘美な個人的感懐ではあっても、間主観的(注)な歴史ではない。②思い出が歴史に転生を遂げるためには、何よりも「物語行為」による媒介が不可欠なのである。思い出は断片的であり、間欠的であり、そこには統一的な筋もなければ有機的連関を組織する脈絡も欠けている。それらの断片を織り合わせ、因果の糸を張りめぐらし、起承転結の結構をしつらえることによって一枚の布にCあえかな文様を浮かび上がらせることこそ、物語行為の役目にほかならない。物語られることによってはじめて、断片的な思い出は「構造化」され、また個人的な思い出は「共同化」される。「物語る」という言語行為を通じた思い出の構造化と共同化こそが、ほかならぬ歴史的事実の成立条件なのである。それゆえ、歴史的事実は、ありのままの「客観的事実」であるよりは、むしろ物語行為によって幾重にも媒介され、変容された「解釈学的事実」と呼ばれねばならない。

（野家啓一『物語の哲学』による）

（注）間主観的——個人の主観を超えて、多数の人間の主観に共通して存在するさまを指す語。共同主観的とも言う。

問１　傍線部Ａ～Ｃの語句の意味を簡潔に説明せよ。

問２　傍線部①とあるが、それはどういうことか、わかりやすく説明せよ。（七十字程度）

問３　傍線部②とあるが、「思い出」が「歴史」に転生するためには、「物語行為」はどのような働きをするのか、わかりやすく説明せよ。（五十字程度）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十一講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●小林秀雄（こばやし　ひでお　一九〇二～一九八三年）文芸批評家
代表作品『様々なる意匠（いしょう）』『無常（むじょう）といふ事』『モオツアルト』『本居宣長』

語句

保証＝ほしょう→正しさや成功を裏付ける／保障→安全を約束する／補償→損害をあとから埋め合わせる
間主観性＝かんしゅかんせい→多くの人の納得を得る＝相互妥当性
喝破＝かっぱ→大声で相手を言い負かす・誤りを退け、真実を解き明かすこと
感懐＝かんかい→心に抱く想い
　cf ノスタルジー→故郷を懐かしむこと、郷愁
　cf レトロ（フランス語）→懐古的・懐古趣味・昔の様式を好むこと

復習問題　第二十一講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）出来事をくまなくキロクする　①禄　②碌　③録　④縁　⑤緑

（イ）理想的なネンダイキ作者　①紀　②記　③期　④樹　⑤着

（ウ）歴史を正確にジョジュツする　①叙　②序　③徐　④如　⑤所

（エ）出来事がサイダイ漏らさず記される　①最　②再　③細　④採　⑤彩

（オ）夜の冷気にヒョウケツする　①潔　②傑　③桔　④決　⑤結

（カ）サマツな出来事は遠景に退く　①差　②査　③佐　④些　⑤詐

（キ）歴史は個人的なカンカイではない　①快　②懐　③解　④回　⑤戒

（ク）重要な事実をユウベンに語る　①雄　②勇　③裕　④優　⑤誘

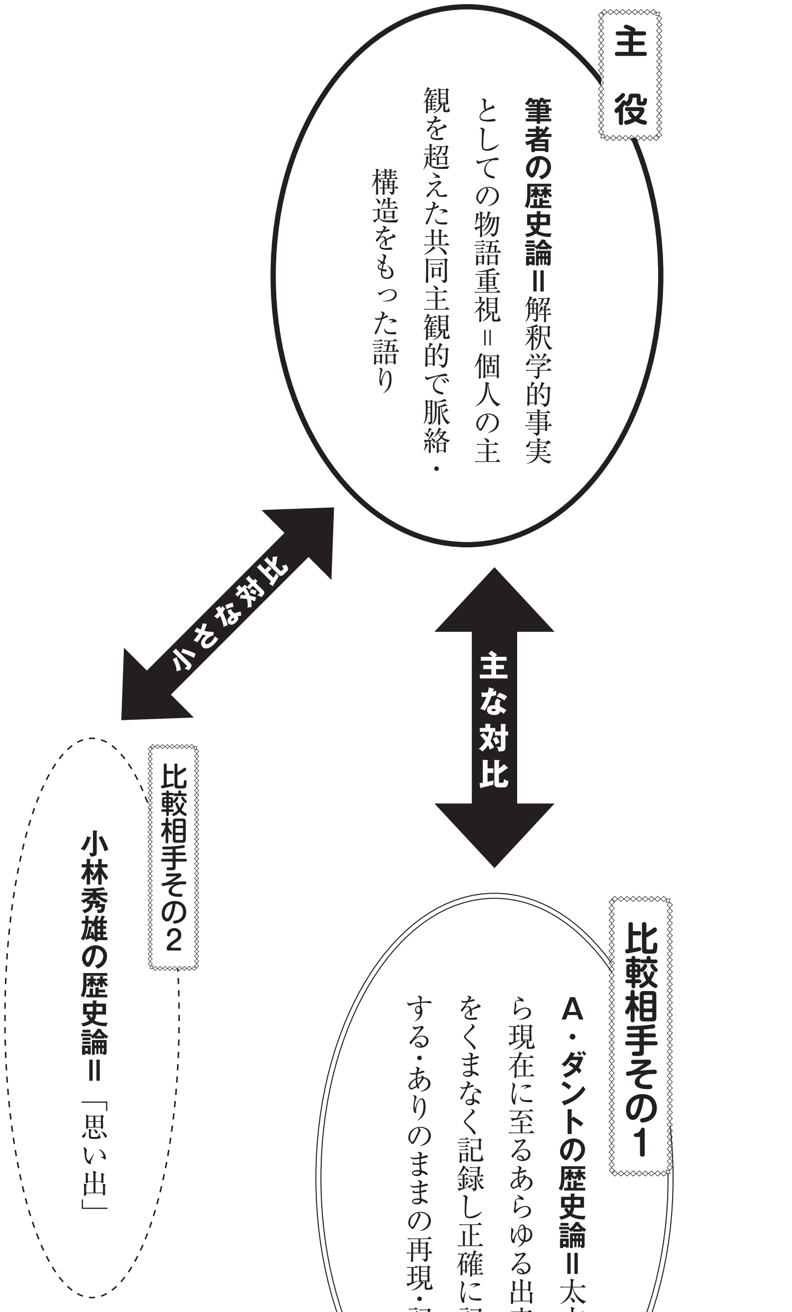
（ケ）断片的でカンケツ的な思い出　①潔　②穴　③血　④結　⑤欠

（コ）正しさが考古学資料によってホショウされる　①証　②償　③障　④哨　⑤賞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十一講　歴史論その2

《本文の対比構造》



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《語句知識・記述》

Ａは、有名で広く知られているということです。厳密には、中国由来の故事成語で次のような意味からきています。膾（なます＝素材を細かく切って酢などにつける料理）や炙（あぶり＝肉などを焼いたもの）がみんなにとっておいしいと感じられるように、広く人々の口にのぼってもてはやされること。Ｂは、まだ夜が明けきらないころということです。早朝でもよいです。Ｃは、まず「あえかな」が「たよりない」「かすかな」という意味です。次に「文様」をそのまま「文様」と書かないようにしましょう。説明ですから、言い換えないと得点になりません。「模様」「形」「型」「姿」などと表現しましょう。つまり、タイムマシンで過去に行って実際を見たわけではなく、歴史史料から一種の物語を再構成し、こうであったろうと表現したものを「あえかな文様」と言っているのです。

問２《傍線部説明・記述》

小林秀雄の「思い出」の説明になります。しかも、傍線部直後に言い換えがあります。さらに「ありのままの再現」という「比較相手その１」との対比にもなっていますから、それも盛り込む。いつもの記述の三大原則＝**具体例はカット・対比の表現・繰り返されている表現は大事（ただし一本化）**にもとづいて答案を作りましょう。では、得点になるポイントは以下の通り。第一ポイント「ありのままの再現ではなく」「ありのままの客観的事実ではなく」「あらゆる出来事を記録し正確に記述するのではなく」などです。第二ポイントは「想起の力学が働く」という指摘です。第三ポイント「強烈な印象のものはクローズアップ（大写しに）する」。第四ポイント「印象に残らないもの（些末なもの）はフェイドアウトする（遠景に退く）」。以上、順番は問いませんが、四つのうち三つ取れるとよいですね。

問３《傍線部説明・記述》

今度は、小林秀雄（比較相手その２）と筆者の見解（主役メッセージ）との対比です。まず、「物語る」行為が「言語行為」であるとの言い換えがありますから、これが第一ポイントです。次に「思い出」の説明として「断片的」または「間欠的」が

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二ポイントで、「個人的」「個人的感懐」が第三ポイントです。第四ポイントは「断片を構造化する」ということで、「統一的な筋」「脈絡」「因果の糸」「起承転結の結構」といった表現でもＯＫです。第五ポイントは「個人的なものを共同化する」ということで、「間主観的なものにする」「共同主観的なものにする」でもＯＫです。以上五つのうち三つ取れるとよいです。

模範解答

問１＝Ａ　広く知られていること　Ｂ＝夜が明けきる前　Ｃ＝かすかな形

問２　出来事のありのままの再現ではなく、想起の力学が働き、印象の強い出来事はクローズアップされ、印象の弱い出来事はフェイドアウトされること。（六十七字）

問３　言語行為により、断片的な思い出を統一的な筋や脈絡をつけて構造化し、個人的な思い出を共同化する働き。（四十九字）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第二十一講

（ア）③　（イ）②　（ウ）①　（エ）③　（オ）⑤
（カ）④　（キ）②　（ク）①　（ケ）⑤　（コ）①

解答漢字一覧

（ア）記録　（イ）年代記　（ウ）叙述　（エ）細大　（オ）氷結
（カ）些末　（キ）感懐　（ク）雄弁　（ケ）間欠　（コ）保証

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。